

平成27年度 事業報告

はじめに

日本経済は、政府の経済政策等により、緩やかな回復傾向にあるといわれておりますが、同時に輸出や個人消費が伸び悩むなど、当初期待されていたほどの成長には及ばず、一進一退の足踏み状態にあるともいわれています。また、中小企業においては、政策等の十分な波及効果を受けていないこともあり、賃上げや設備投資の動きは鈍く、先行きが不透明な状況にあります。さらに、この1月から日本銀行が金融緩和政策としてマイナス金利を導入しましたが、効果は不透明であり、その副作用も懸念されており、今後の動向を注視していく必要があります。

健診・検査をとりまく環境としましては、平成26年6月の労働安全衛生法の改正により、平成27年12月に50人以上の事業場でのストレスチェックの実施が義務化されたことを受け、従業員の心身両面の健康管理・増進をすることで企業の活力を高める「健康経営」が企業へ浸透していくと考えられます。また、胃がん検診・乳がん検診については、厚生労働省の検討会において、対象年齢や実施方法が見直しとなり、今後の実施体制への影響も考えられます。

このような状況下において、当協会では、ストレスチェック制度に対応するためのシステムの構築や、実施体制の整備に取り組むとともに、特定健康診査・各種がん検診・特定保健指導において、積極的な受診勧奨に努めました。また、平成27年度より新たに神戸市国民健康保険加入者を対象とする特定健診とがん検診の同時受診が可能な、いわゆるセット健診を健康ライフプラザで実施し、受診しやすい環境づくりを行い、受診率の向上に努めました。さらに、例年実施している講演会の開催や、機関紙・ホームページなどで、当協会のPRを行うとともに、健康情報を発信し、予防医学の普及・啓発活動にも取り組みました。

経営面では、健診・検査部門においてセット健診の実施や新規契約もあり、経営状況は少しずつ改善しつつありますが、灘健診センター及び改修した御影健診センターの減価償却費に加え、平成27年度はマイナス金利に伴う金利の低下の影響を受けて、職員の退職給付引当金を例年に比べて約1億2千万円多く引き当てる必要があり、経常増減では約1億1千万円の赤字を計上することとなりました。

今後とも厳しい状況が続くことが見込まれますが、時代のニーズに即応した事業の見直しや拡充を図り、経営基盤の安定化に取り組むとともに、わかりやすい情報提供など一層のサービス向上に努めることにより、県民の疾病予防と健康増進に寄与するという公益財団法人としての使命を果たしてまいります。

事業の概要

公益目的事業

当協会は、行政諸機関や地域医療機関及び保健機関との密接な協力関係のもと、各種健診・検査、健康支援及び健康教育等を行い、県民・市民の疾病予防と健康増進に寄与することを目的とし、次の1から4の公益目的事業を実施した。

1. 疾病予防に関する知識の普及・啓発事業

(1) 広報・情報提供

①機関紙「あすの健康」の発行

予防医学の知識の普及・啓発や健康づくりに関連する情報を広く提供することを目的に機関誌「あすの健康」を発行し、地方公共団体、関連団体、事業所及び各種団体等を通じ県民に健康情報等を発信した。

②ホームページでの情報提供事業

禁煙外来のページを新たに追加した。健康ライフプラザの健康づくり教室のコース分類を変更し、講師紹介ページとともに更新した。トップページのグローバルメニューをアコーディオン形式に変更し、わかりやすくするなど、より利用しやすいものに改善した。

(2) 講演会開催、講師派遣、普及・啓発活動

予防医学の知識の普及・啓発を目的として、昭和46年に県民・市民等を対象に「予防医学講演会」としてスタートした活動も現在、「予防医学フォーラム」「いきいきライフセミナー」「がんをよく知るための講座」「働く人の健康づくり研修会」を定期的に開催している。今年度は、次に示すテーマで開催した。

また、地方公共団体、健康保険組合、地域団体等からの要請を受けて講演会・講座への講師派遣を行った。

①講演会開催

(ア) 予防医学フォーラム

昭和61年より、予防医学の普及・啓発を目的として、病気の話をはじめ、健康づくりや教養等様々なテーマを取り上げ、神戸新聞社との共催で開催している。今年度の開催内容は以下のとおり。

◇開催日 平成27年11月14日(土)

◇場所 神戸新聞松方ホール

◇講演 テーマ 「脳と腸の不思議な関係」

講師 東北大学大学院医学系研究科行動医学分野教授 福土 審 氏

◇対 談 福土 審 氏
聞き手 元神戸新聞論説委員 古山 桂子 氏

◇後 援 兵庫県／神戸市

◇参加者数 640名

(イ) いきいきライフセミナー

平成6年より、毎年9月のがん征圧月間にちなみ“がん”や“健康”等をテーマに神戸新聞社との共催で開催している。今年度の開催内容は以下のとおり。

◇開催日 平成27年9月12日(土)

◇場 所 神戸新聞松方ホール

◇講 演 テーマ 「がんを遠ざける生活習慣ー予防のための正しい知識ー」

講 師 国立研究開発法人国立がん研究センター

がん予防・検診研究センターセンター長 津金 昌一郎 氏

◇対 談 津金 昌一郎 氏

聞き手 元神戸新聞論説委員 古山 桂子 氏

◇健康表現体操 指 導 健康運動指導士 他

◇後 援 兵庫県／神戸市

◇参加者数 604名

(ウ) がんをよく知るための講座

平成10年度より、日本人の死亡原因のトップである“がん”について、最新の治療方法等、専門家から正しく新しい知識を学ぶことをテーマに、神戸新聞社との共催で開催している。今年度は以下の2回を開催した。

(i) ◇テ ー マ 「知っておいて得する胃がんの知識ー予防から治療までー」

◇開催日 平成27年7月31日(金)

◇場 所 神戸市健康づくりセンター 健康ライフプラザ 5階多目的室

◇講 師 兵庫医科大学 外科学 上部消化管外科 主任教授 笹子 三津留 氏

◇参加者数 97名

(ii) ◇テ ー マ 「ここまでよくなった抗がん薬」

◇開催日 平成28年1月27日(水)

◇場 所 神戸市健康づくりセンター 健康ライフプラザ 5階多目的室

◇講 師 神戸大学大学院 医学研究科 内科学講座 腫瘍・血液内科学分野
教授 南 博信 氏

◇参加者数 78名

(エ) 働く人の健康管理研修会

平成8年度より、事業所等における従業員の健康管理をサポートするために開催している。第46回を迎えた今年度の開催内容は以下のとおり。

- ◇テーマ 「例から学ぶ疾病サインと対応ーメンタルヘルス推進担当者が目指すものとはー」
- ◇開催日 平成28年3月18日(金)
- ◇場所 健診センター 5階多目的室
- ◇講師 神戸学院大学総合リハビリテーション学部 教授 前田 潔 氏
- ◇参加者数 46名

②講師派遣

事業所や団体が開催する講演会、健康づくり教室等へ次のとおり医師を派遣した。

○講演会へ医師派遣：8回

テーマ「いきいきライフのすすめ」「健診結果の読み方・活かし方」「長時間労働と健康障害」
「ストレスチェック制度の概要」など

③普及・啓発活動

(ア) 結核・乳がんに関する知識の普及啓発

結核及び乳がんの早期発見を目的に、地方公共団体や各種団体が主催するキャンペーン事業に協力し、胸部X線検診車による結核検診及び乳房検診車による乳がん検診を行った。

- こうべ福祉・健康フェア：結核検診受診者202名
- 母の日乳がん検診街頭キャンペーン：乳がん検診受診者21名
- ピンクリボンフェスティバル神戸大会：乳がん検診受診者21名
- 結核ハイリスク者に対する早期発見および蔓延防止のための啓発活動
結核検診受診者：1, 228名

(イ) 認知症予防に関する知識等の普及啓発

認知症予防に向けた自己健康管理への支援活動として認知症予防事業を開始し、まず認知症予防に関する知識の普及啓発として講演会や講話を開催するとともに、タブレット端末を使用した認知機能スクリーニングを行なった。

- 自治会の世話役、事業所の健康づくり担当者等を対象とした講演会：参加者56名
- 地域の自治会等での講話及び認知症スクリーニング：2グループ 参加者34名

(ウ) メディアとの連携

要介護予防事業の一環として、引続きラジオ関西、神戸新聞社と連携し、認知症の予防啓発や高齢者の健康な生活の提案を目的に、「頭にいいラジオ」を製作・監修した。従来からの脳トレーニング、食生活、回想、コミュニケーション、運動などに加え、リスナーと直接コミュニケーションがとれる“な

ぞなぞ”を取り入れ、日替わりで放送した。その内容は神戸新聞電子版でも聴くことができる。

2. 疾病予防のための健康診断及び検査事業

(1) 地域保健

①特定健康診査及びがん検診

地方公共団体からの委託を受け、市民健診（国保特定健康診査・後期高齢者健診・若年者健診）を拠点会場において集団健診で実施した。休日健診実施や胃がん・乳がん検診同日実施等受診者サービスの向上を図り受診率の向上に努めた。今年度より神戸市健康づくりセンター「健康ライフプラザ」においては、神戸市国民健康保険に加入する方を対象に、特定健康診査とがん検診の同時受診が可能な「セット健診」を新たに実施し、その効果もあり受診者総数は前年度より増加し約59,400人となった。

一部の自治体の市民健診会場においては、保健師や健診スタッフが要医療への未受診勧奨を約930人に行った。また、問診票による「COPD（慢性閉塞性肺疾患）リスクチェック」を実施し、COPD検査（呼吸機能検査）を約890人、禁煙支援を約450人に実施して重症化予防のための啓発を行った。

胃がん・乳がん検診は、受診しやすい環境づくりを推進して受診率の向上に努め、受診者数は、胃がん検診が約22,400人、乳がん検診が約9,200人であった。

大腸がん検診は、通年での市民健診同時実施に加え、冬季（11月～3月）限定での郵送方式で実施した。郵送方式では今年度、有料者に対する利便性向上のため、自己負担金の支払（検診申込を含め）をコンビニエンスストアでも可能とした。受診機会の拡大や広報活動の活発化により、受診者数は前年度比較で約11,000人増の約105,000人となった。

逐年受診の推奨を目的に実施しているコール・リコール(個別勧奨)事業は、平成23年度から5年間実施した無料クーポン券配布で拡大した新規受診者に効果的に働き、毎年の受診者増につながった。今後も積極的に取り組むと共に、新規受診者の拡大に向けた広報活動をさらに進めていく。

②結核検診

地方公共団体より委託を受け、拠点会場において集団検診で実施した。また、神戸市からの委託を受け、症状があっても医療機関を受診しないハイリスク者に対する休日や夜間検診及び住所不定者や小規模事業従事者も含めた多様な生活形態への配慮と利便に工夫した検診を実施し、約2,300人となった。

今後もさらに受診しやすい環境を整備する等、受診機会の確保に努め、県民・市民の結核予防に寄与していく。

③エイズ（HIV/AIDS）検診

神戸市からの委託を受け、神戸市の中心街である三宮地区において、土曜日や夜間に定期実施を行った。土曜日の即日検査の受診者数は、前年度とほぼ同じ515人であった。また、夜間検診の受診者数

は、前年度より若干減り1,812人となった。

夜間検診で同時に実施できる性感染症検査では、例年通り梅毒、クラミジア検査を実施した。なお、クラミジア検査については、血液検査よりの確な診断が可能である尿による検査を平成26年度と同様に実施した。今後も受診者へのプライバシーを配慮し、受診しやすい環境を整えていく。

(2) 学校保健

県下の各市町教育委員会及び大学・私立学校法人からの委託を受けて、地区医師会の協力を得て、学校保健安全法に基づく腎臓・糖尿病検診、寄生虫検査、心臓検診、脊柱検診及び結核検診を延べ約665,000人に対して実施した。検体検査分野を始めとして、地方公共団体による入札制度により厳しい状況であったが、児童・生徒の疾病予防及び健康管理に寄与するために健診検査の質を低下させることなく、ニーズに応えた日程調整を行う等円滑に実施するためのきめ細やかな取り組みを行った。

また、少子化により児童・生徒数は減少傾向にあるが、今後も積極的な検診実施に取り組むとともに、専門医との連携による検診精度の維持・管理に努め、県下の児童・生徒の疾病予防及び健康管理に寄与していく。

(3) 産業保健

地方公共団体や一般企業等の事業所で働く人延べ約283,600人を対象に、労働安全衛生法に基づく定期健康診断、特殊健康診断及び行政指導によるVDT健診等、職業性疾病予防と早期発見を目的として健診・検査を実施した。

地方公共団体等における入札制度や見積り合せにより厳しい状況が続いているが、当協会が所有する検診車の機動力を生かした出張健診による迅速で柔軟な対応や精度等が評価されたことにより、新規受託や既存契約先との継続受託にすることができ、継続的な健康情報の提供による事業所の労働衛生の向上及び働く人の健康づくりに貢献した。

労働安全衛生法の改正により、平成27年12月から施行されたストレスチェック制度については、システムの構築・実施体制を整え、約11,000人に実施した。今後は更に「こころ」を含めた健康の管理・増進に取り組み、働く人の健康づくりを進めていく。

(4) 総合健診

県民・市民の疾病予防と健康増進に寄与することを目的に、阪神地区の拠点として、神戸市灘区の健診センター、また、神戸市西部及び東播地域の拠点として、神戸市兵庫区健康ライフプラザにおいて、法定の健康診断に様々な検査項目を追加した総合健診を実施した。

総合健診のコースとしては、「半日ドック」、「2時間ドック」や「1泊ドック」があり、それぞれに「女性特有のがん検診」として「子宮頸がん検診」、「マンモグラフィ検査」や「乳房超音波検査」及び「CT検査」や「頭部MR検査」等、希望に応じて幅広い複数のオプション検査が選択可能であり、かつ、健診センターでは、「肺ドック」、「循環器ドック」や健診当日に結果説明を実施する「1日ドック」、健康ライ

プラザでは、MR装置を利用した「脳ドック」や高齢者の要介護予防を目的とした「いきいきライフドック」を設定し、総合健診の充実に努めた。

多忙な勤労者や事業主、日頃受診機会の少ない家庭の主婦等に対して、個々の都合に合わせて柔軟な対応ができるように、休日健診等の実施体制を整え、より受診しやすい環境に整備するとともに、健診結果において精密な検査や治療が必要と認められる受診者に対して、主治医や専門医療機関との病診連携を取りながら受診勧奨を行う等、アフターフォローの充実に努めた。

今後も、施設設備の充実した健診センターと最新のMR装置を備えた健康ライフプラザを積極的に広報活動し、受診者数の増加に繋げ、県民・市民の健康増進に寄与できるよう努めていく。

(5) 保健指導

①各種健康診断結果等を踏まえた地域・職域における保健指導

地方公共団体の市民健診会場や事業所に出張して健診結果等を踏まえた保健指導を実施し、健診の継続受診や要医療者への受診勧奨を行った。また、市民健診会場において前年度の健診結果における要医療者のうち、未受診者への受診勧奨を行い、早期発見・早期治療のための受診の動機づけを行った。

また、事業所等へ出張により腰痛予防体操、健診結果の見方等の研修会を実施し、健康で働き続けるための支援を行った。

②労働安全衛生法に基づく労働者の健康管理、作業管理等における保健指導

平成26年3月に11年ぶりの改正となった「健康づくりのための睡眠指針2014」を踏まえて、睡眠に問題を抱えた人は生活習慣病やうつ病のリスクが高まることや、熟睡のコツについての情報を盛り込んだ研修会を行い、作業効率改善や安全な労働の確保に必要な自己健康管理について学ぶ機会を提供した。

③高齢者医療の確保に関する法律に基づく特定保健指導

国民健康保険をはじめ、全国健康保険協会並びに各種健康保険組合等の被保険者及び被扶養者に対し、主に会場に出張して特定保健指導を実施した。初回支援を個別指導で実施し、以後6ヶ月間にわたり、プログラムにそって階層化で分類された動機付け支援・積極的支援を面接・電話・レター等で指導を実施した。

④メンタルヘルス事業のための保健指導

ストレスチェック制度の施行に向けシステム化し、平成28年1月からストレスチェック事業を開始した。ストレスチェック結果票の見方の説明や、産業医契約を締結している事業所についてはストレスチェック導入に関する啓発や助言等を行った。ストレスチェック後の高ストレス者の面接指導についても実施体制の整備を図っていく。

また、メンタルヘルス対策の充実・強化のため、事業所職員のセルフケアについての健康教育に関して、コミュニケーション等についての研修会を実施した。

⑤H I V等の感染症に関する知識啓発、検査及び指導

夜間H I V抗体・性感染症検診及び即日H I V抗体・H B s 抗原検診等において、検査前の事前説明と検査結果説明を通じて保健指導を行い、予防に関する知識啓発を行った。

⑥電話等による各種相談

当協会での受診結果について、電話等で各種の健康相談に応じ、夏季の脱水や感染症等時事的な健康問題をはじめ、受診結果以外の事柄等についても可能な範囲で健康相談に応じていくことで、広く県民の安心に寄与できるように努めた。

(6) 細胞診

喀痰細胞診の検査数は、前年度より約1,900件増加した。神戸市肺がん検診のうち、通常の神戸市医師会経由分では約8,000件と前年度と同数であったが、今年度から健康ライフプラザで実施されたセット健診分が1,900件あり、これが増加分に相当する。一方、当協会内部検査分は約1,000件で前年度とほぼ同数であった。

子宮がん細胞診の検査数は、前年度より約6,000件減少した。神戸市子宮頸がん検診のうち、通常検診(20歳以上・2年毎)は、セット健診の約700件を含め、約26,000件で、前年度より3,000件増加した。一方、「無料クーポン券」による検診は約6,000件で、前年度より8,000件減少したが、こちらは対象者が前年度の「平成21年～24年度の未受診者及び20歳を迎える方」から今年度の「平成25年度の未受診者及び20歳を迎える方」に変更となったためである。医療機関からの保険診療での受託分は、約3,500件で前年度より約1,000件減少し、協会施設内検診分は約7,300件と前年度とほぼ同数であった。

今年度に神戸市子宮頸がん検診の報告様式はベセスダシステムに統一された。今後は、不適正症例数を減少させるために、LBC(液状処理細胞診)導入に向けた動きが急速に進むことが見込まれ、関係機関との協力体制のもと適切に対応していく。

(7) 腸内細菌検査

今年度の実施件数は約75,000件と前年度より約13,000件の減少となった。次年度は、件数減少に歯止めをかけるべく、腸内細菌検査のスクリーニング法として遺伝子検査(マルチPCR)を導入する予定である。また、一方で契約先のニーズに対応した付加価値(食品検査・衛生調査・精度重視)の充実を図り、実施件数の増加に繋げていく。

神戸市保健所からの感染症対策に基づいた腸内細菌(赤痢、パラチフス、腸管出血性大腸菌O157)及び喀痰検査については、今年度も引続き検査を受託した。今後も検査精度の維持向上に努め、保健行政に貢献していく。

(8) 作業環境測定

総合労働安全衛生機関として、「働く人の健康維持増進や快適な職場環境の保持・創出」を目的に健診

事業と併せて、有害物質取扱い事業場を中心に屋内並びに屋外作業場あるいは居室を対象として、作業環境測定を実施した。

近年の有害物質の新たな法規制拡大や監視強化、事業者の健康意識の高まりを反映して、1,240箇所の測定を実施した。特に、昨今の胆管がん問題等産業活動に起因する健康被害の注目により、印刷、洗浄、塗装業務等に使用される有機溶剤並びに特別有機溶剤等を対象とする測定が191箇所であり、前年度に比べて増加した。

今後も、特殊健康診断と一体となり、総合判断に基づく事業場の労働衛生管理の改善を支援していく。

(9) 食品検査等

食品営業者の保存試験や食中毒予防に関連した自主衛生管理に基づく検査であり、今年度の実施件数は、理化学検査において項目数で1,686件、細菌検査においては7,924件であった。

腸管出血性大腸菌、カンピロバクター、ノロウイルス等の食中毒予防や異物混入防止に対する消費者並びに食品営業者の関心は常に高く、食品営業業者はより高度な衛生管理が求められていることから、今後も衛生管理指導、施設衛生調査、窓口相談業務の充実や、きめ細かい顧客対応により衛生管理体制の構築を支援していく。

(10) 水質検査

今年度の実施件数は、建築物衛生法や飲用井戸に係る水質検査、プール及び公衆浴場等衛生管理上の水質検査は合計で2,430件であった。

今後も、飲用に関わる水質検査及びプール・公衆浴場等の衛生確保に資する検査を中心に事業を進め、利用者の安全性の確保に寄与していく。

(11) 水道施設検査（貯水槽水道検査）

ビル、共同住宅、学校等の一定規模の貯水槽を有する施設における水道設備の衛生的な維持管理にかかる検査であり、今年度の実施件数は、県下の水道法に規定される簡易専用水道が3,412件、有効容量が10m³を下回る小規模受水槽水道が807件、その他準用等を含めた合計は4,245件であった。

貯水槽水道検査結果等は、設置者の了解を得たうえで、それぞれの自治体に速やかに報告することで、衛生上問題がある施設に対する行政の指導や、定期検査受検率の向上に寄与するとともに、引続き貯水槽水道の衛生的な維持管理や自主衛生管理を支援することにより、利用者の安全安心の確保に寄与していく。

3. 予防医学に関する調査研究事業

(1) 調査・研究

がん検診や特定保健指導をはじめとし、各種健診・検査において得られたデータ等をもとに調査研究を行い、様々な分野でそれらの成果を発表・発信した。

①論文発表（総説論文、原著論文等）

- 上田いずみ：保健指導業務評価チェックシートの活用による指導技術の向上と特定保健指導の効果について. 予防医学ジャーナル 483：36-40, 2015
- 宮本祐見子：チェックリストからみた採血業務の現状分析. 予防医学ジャーナル 483：46-49, 2015
- 高橋かおる：non-HDL コレステロール. Nutrition Care メディカ出版 vol9no.1：36-37, 2015
- 高橋かおる：中性脂肪（トリグリセリド）. Nutrition Care メディカ出版 vol9no.1：40-41, 2015

②学会報告等

- 高橋かおる：現場で役立つ？検体検査よもやま話，楽しくてためになる健康教育の実践セミナー 2015，京都，2015. 4. 12
- 高橋かおる：非糖尿病男性における蛋白尿を陽性化もしくは陰性化させる因子の検討，第 58 回日本糖尿病学会年次学術集会，下関，2015. 5. 22
- 富田安彦：省略4誘導心電図と2点心音図の心臓検診でみつかった心疾患，第 58 回日本小児循環器学会総会・学術集会，東京，2015. 7. 16-17
- 前川朝彦：小規模受水槽水道の検査状況と神戸市における取り組み，平成 27 年度全国給水衛生検査協会近畿支部研修会，大阪，2015. 9. 18
- 亀井真由美：ストレスチェック制度における保健師のメンタルヘルス連携の実際，第 55 回近畿産業衛生学会，兵庫，2015. 11. 14
- 前川朝彦：小規模受水槽水道の検査状況と神戸市における取り組み，平成 27 年度全国給水衛生検査協会簡易専用水道検査全国技術研究発表会，東京，2015. 12. 10-11
- 猪又麻子：要介護予防事業への取り組みについてーいきいきライフドクター，第 50 回予防医学技術研究会議，仙台，2016. 2. 25-26
- 平田奈緒美：行動変容をめざした特定保健指導ー性格タイプ別の教材を取り入れた効果の検証ー，第 50 回予防医学技術研究会議，仙台，2016. 2. 25-26
- 小西晴美：認知症予防に対する試みー50歳からの脳力アップセミナーー，第 50 回予防医学技術研究会議，仙台，2016. 2. 25-26
- 寺田洋祐：地域保健におけるCOPDスクリーニング，第 50 回予防医学技術研究会議，仙台，2016. 2. 25-26
- 富田安彦：過去の川崎病流行時と最近の患者増加時の患者年齢分布の特徴的な差異<川崎病発病契機の疫学的アプローチ>，第 40 回近畿川崎病学会，大阪，2016. 2. 27
- 山浦泰子：Effects of Smoking Status and Smoking Cessation on Carotid Intima-Media Thickness in Subjects with Cardiovascular Risk Factors，第 80 回日本循環器学会学術集会，仙台，2016. 3. 18-20

(2) 健診・検査で得られたデータの活用

①事業年報の配付

年度単位の健診・検査データの活用を推進するため、平成26年度事業年報の編集において、集計・統計やその表示について調査研究に引用しやすいよう修正を加えた。また、健康管理、健康対策の基礎資料等として地方公共団体・保健医療機関等広く配布し情報提供した。

②健診・検査データ等の活用

(ア) 統計解析や調査研究結果に基づいた判定や保健指導の実施

検査データの積み上げにとどまらず、問診データ等の諸条件に基づく複合的な統計処理を行い、生活習慣、既往歴等、更には性格的要素等と健診・検査データの関連性を見出し、実際のデータから得られた知見等を保健指導・栄養指導に有効活用した。

○行動変容をめざした特定保健指導－性格タイプ別の教材を取り入れた効果の検証－

○ストレスチェック制度における保健師のメンタルヘルス連携の実際

(イ) 統計解析や研究により取得した情報の提供

健診・検査データの統計処理から得られた知見や健診で用いられる様々な検査の意義等の情報等を講演会や学会等での発表や広報誌に掲載する等、健康管理に役立つ情報を積極的に発信した。

○シンポジウム『健診結果の読み方・生かし方 - 糖尿病予防 - 』を開催し、「糖尿病の検査」「食生活のポイント」「なりやすい人への生活指導」についてそれらの検査の方法や意義、生活の改善方法等を、臨床検査技師、管理栄養士、保健師がわかりやすく解説し、糖尿病予防・早期発見のための健康診断の重要性を発信した。

○健康づくりセミナー『学校検尿と小児の腎疾患』を開催し、一般市民の他、教育委員会関係者、養護教諭、医師会学校保健委員会等を対象に、「小児における腎疾患の診断と治療」「学校検尿システムについて」をテーマに医師と臨床検査技師が解説し、子供たちの腎臓疾患を早期発見し、早期治療へ導くために、学校検尿に求められる有効な検査・報告システム等、学校検尿の役割について発信した。

4. 健康支援のための健康増進事業及び健康教育事業

(1) 健康づくり事業

①健康学習

疾病予防や健康づくりに関する知識の普及啓発を目的に公開講座を開催した。「土曜健康科学セミナー」では疾病予防に関する知識や情報に加えて最新の医療情報や介護予防に結びつく内容を、また、「健康づくりセミナー」では食育や健康診断の検査項目に関するテーマを取り上げ、講演会だけでなくシンポジウム等受講者参加型セミナーも開催し、受講者にわかりやすく興味深いと好評を得た。

②健康づくり教室

神戸市健康づくりセンター指定管理者共同事業体であるオーグスポーツと協力し、運動不足やストレス等により健康を損ないがちな県民・市民・勤労者に対し、栄養・運動・休養の総合的な面から個々に適した健康的なライフスタイルを確立できるよう、また、年代や性別、個人の体力や知識レベルにあわせて選べるように工夫し実践型教室を開催した。

(ア) 生活改善コース

慢性腎臓病重症化予防教室に加え、糖尿病・高血圧循環器系疾患を新たに開催し、重症化予防教室を充実させた。また、生活習慣病の予防と改善について料理と講話で学ぶ教室「いきいき食生活」等を引き続き月例で開催した。

(イ) 介護予防コース

「認知症予防実践教室」に加え、身体を動かすことで得られるリフレッシュ感や、自分の体力の衰えを実感することで、日常生活での運動の必要性を理解し実践につなげる内容も提供した。

(ウ) 食育推進コース

個々のレベルに合わせた調理実習や試食を通し、栄養と健康を考えた好ましい食生活をサポートする教室を開催した。

(エ) すこやかコース

心の健康の必要性を知り、ストレスに対処する方法を講話や実習で体験する内容を提供した。

③禁煙外来

健診センターにおいて、予防医学推進の観点からニコチン依存症に対する禁煙治療を保険診療で実施する体制を整えた。ブリクマン指数200以上等の条件を満たす方を対象に呼気一酸化炭素濃度の測定や禁煙継続のためアドバイス、禁煙補助剤の処方を行い、禁煙の達成を支援するもので、今後当協会の受診者を中心にPRをしていく。

(2) 健康づくり支援事業

勤労者や各種団体等を対象に、健康づくりプログラムを提案するとともに、管理栄養士・健康運動指導士等の専門スタッフを派遣し、健康づくりを支援した。また、健康ライフプラザのライフキッチン等の施設を活用し、実践に重点を置いたセミナーも実施した。

健康ライフプラザに設置したセルフチェックコーナーでは、簡易に使える健康機器を来所者がいつでも使用できるように配置し、自主的な健康づくりの場として提供した。さらにこれらの機器を用いて、神戸市等がおこなうイベントに出向き、健康づくり活動の普及啓発を目的にした健康チェックを行い利用者に好評を得た。

《設備機器等の更新・整備》

(1) 一般財団法人 日本宝くじ協会助成による乳がん検診車の整備

一般財団法人 日本宝くじ協会の助成を受け、公益財団法人 予防医学事業中央会が整備した乳がん検診車が、平成27年12月21日に同会兵庫県支部である当協会に配備された。

平成28年1月より本格稼働し、神戸市をはじめとした自治体の乳がん検診に使用した。

○整備総額 66,207,380円 (消費税相当額含む)

○助成総額 65,880,000円 (消費税相当額含む)

○特徴

マンモグラフィ撮影装置のみではなく、高画質性能の超音波検査装置を搭載しており、必要に応じてマンモグラフィと乳腺エコーの併用検診を行えるなど高精度な乳がん検診が可能。

(2) その他設備機器等の更新・整備

業務の改善を目的として、設備機器等の整備を行った。

- ①胸部デジタルX線検診車
- ②腸内細菌・簡易専用水道検査システム
- ③ストレスチェックシステム
- ④胸部X線発生装置
- ⑤自動血球分析装置 (2台)
- ⑥解析付心電計 (2台)
- ⑦超音波画像診断装置
- ⑧トレッドミル走行装置
- ⑨婦人科ユニット台 (4台)
- ⑩レセプト計算プログラム (2式)

《寄附金受納》

○寄附者

宮本 武 様

事業実績明細

(疾病予防のための健康診断及び検査事業・健康支援のための健康増進事業及び健康教育事業)

事業名	種別	内 容	件 数 等	
			当 年 度	前 年 度
疾病予防のための健康診断 及び検査事業	地域保健	特定健康診査等	59,456人	56,987人
		がん検診(施設実施分含む)	147,685人	134,525人
		結核検診	55,238人	53,980人
		エイズ検診	2,327人	2,433人
	学校保健	腎臓・糖尿病検診	382,818人	383,006人
		寄生虫検査	90,812人	149,967人
		心臓検診	75,189人	74,481人
		脊柱検診	30,806人	31,581人
		結核検診	85,722人	85,058人
	産業保健	一般健診	169,357人	166,637人
		特殊検診	17,999人	15,314人
		協会けんぽ生活習慣病予防健診	23,275人	22,797人
		がん検診(施設実施分含む)	72,819人	68,273人
		労災二次健診	150人	113人
	総合健診	総合健診	6,510人	6,657人
	保健指導	特定保健指導等	651人	478人
	細胞診	子宮がん細胞診	43,803件	49,997件
		喀痰細胞診	10,806件	8,960件
	腸内細菌検査	腸内細菌検査	74,654件	87,988件
	作業環境測定	作業環境測定	1,240件	1,160件
食品検査等	食品検査	9,610件	10,606件	
水質検査	水質検査	2,430件	2,223件	
水道施設検査	簡易専用水道検査等	4,245件	4,489件	
健康支援のための健康増進 事業及び健康教育事業	健康づくり事業	健康学習・健康づくり教室	6,344人	7,321人
	健康づくり支援事業	講師派遣等	80回	100回

※学校保健「腎臓・糖尿病検診」「寄生虫検査」、細胞診「子宮がん細胞診」及び腸内細菌検査「腸内細菌検査」の件数等について、平成27年度より集計方法変更のため、平成26年度事業報告書の件数等と差異が生じております。